



日本共産党東京都議会議員（厚生委員）

藤田りょうこの都政報告

連絡先 藤田りょうこ事務所 大田区西蒲田6-34-7
☎ 3736-1494 fax 3735-4522

発行 日本共産党東京都議団 新宿区西新宿2-8-1 ☎ 5320-7270

藤田りょうこ

検索

新型コロナウイルス 感染拡大防止に全力

2020年第一回臨時会
4/17~22

補正予算を審議

— 第1回臨時会報告 —

今回の臨時会は、新型コロナ感染拡大により国の緊急事態宣言が出されるなかで開かれ、感染症緊急対策の補正予算が審議されました。

1 医療崩壊を食い止める

都医師会によりPCR検査センターの設置が進んでおり、都から感染対策などへの支援をおこなうよう求めました。また、ドライブスルー方式なども提案し、適切に対応していくという前向きの答弁がありました。

都内4000床の病床確保のために、病院の空床確保や、医師・看護師確保、病院の減収補填など、十分な支援を行うことや、コロナ専門病院の設定を求めました。

2 白糸と補償はセットで

補正予算で感染拡大防止協力金が盛り込まれたことは一步前進ですが、協力金の対象事業者は、都内中小企業、個人事業主の約3割にすぎないことが明らかに

3 声をあげ力を合わせ未来開く

都民の運動により、ネットカフェ休業などで住まいを失つた方のためのホテルの確保数が拡充。休業したライフゲストがインターネットで動画配信した時でも、協力金の対象になりました。

声をあげれば政治は変わります。

共産党都議団は、みなさ

んの声に耳をかたむけ、引き続き問題の解決のために力をつくします。



PCR検査について都内の研究所を視察、左から2人目、藤田都議=4月18日、板橋区

PCR検査
最前線
視察課題・要望
を聞き取り

3月2日の厚生委員会では、PCR検査体制の強化のため、都の健康安全研究センターと保健所の職員体制強化と、民間検査会社の活用を求めました。

PCR検査の拡充を
厚生委員会質疑



質問する藤田都議=3月2日、都議会厚生委員会（「赤旗」提供）



3月23日 藤田都議は共産党都議会の谷川智行・新規コロナウイルス対策本部長（医師）とともに港区高齢者施設の職員（左）から説明を聞く藤田（右）、谷川（中央）=3月23日、港区（「赤旗」提供）

マスク不足が深刻
藤田都議、ディサービスセンター視察

3月23日 藤田都議は共産党都議会の谷川智行・新規コロナウイルス対策本部長（医師）とともに港区高齢者施設の職員（左）から説明を聞く藤田（右）、谷川（中央）=3月23日、港区（「赤旗」提供）

4月18日、藤田都議は共産党の小池晃参議院議員らとともにPCR検査の検体検査を4月中旬に始める民間検査共同事業所・病体生理研究所（板橋区）を訪れ、検査の手順や現在の課題、行政への要望などを聞き取りました。研究所の五十嵐清子検査部長が、咽頭（いんとう）拭い液などの検体から、RNAを抽出して精製する複雑な作業を説明。訓練などに国からの支援はないが、「使命感で取り組む」と語りました。

藤田都議「この検査は器械にかける前のRNA抽出という専門職でも非常に集中力を伴う作業です。こうした専門職の訓練や防護服などの支給についても、国や自治体から支援することが重要です」。

使い方を今こそ見直せ

共産党都議団は、閉会中の質疑ができる特別委員会の設置を提案しましたが、都民ファーストの会、公明党などの反対多数で実現しませんでした。しかし、緊急事態宣言終了予定の5月

6日がせまるなか、第2回定例会を待つわけにはいきません。新たな特別委員会の設置などを行い、都議会

としての責任をはたすことが必要です。

都の税金の使い方を見直

し、都民の命と暮らし・営業を守りぬくためのとりくみを、抜本的につぶめることができます。共産党都議団は、18議席の力を發揮して、感染爆発・医療崩壊をなんとしてもふせぎ、都民を守りぬくため、ひきつづき全力で奮闘するものです。



本会議で討論する藤田都議=3月5日

藤田りょうこ都議
本会議討論
都民の安心、安全のため、さらなる対策を
学校の休校により、給食食材の
ために、藤田都議は討論で、
新型コロナウイルス検査体制強化などを盛り込む



東京都議会は3月5日の本会議で、新型コロナウイルス感染症の検査体制強化や感染防護具の備蓄、打撃を受けた中小企業への緊急融資を盛り込んだ2019年度補正予算を全会一致で可決しました。

藤田都議は、「都民の安心、安全のため、さらなる対策を検討すべきだ」と訴えました。

19年度
補正予算
全会一致

新型コロナウイルス
検査体制強化などを盛り込む

納入業者や生産者への深刻な影響、子ども向けにお芝居をしている劇団の公演のキャンセル、卒業式の中止による花の需要の低迷などが起きていることを訴え、都民の安心、安全のためのさらなる対策を検討するよう強く求めました。

独法化=医療の後退 党都議団、断固反対

東京都は2022年度内を目指して都立病院・公社病院を地方独立行政法人化する「新たな病院運営改革ビジョン」を策定しました。

都立・公社病院の独法化は医療を後退

「ビジョン」は都立病院について、「最小の経費で最大のサービスを提供」とし、公社病院についても「都の財政負担の軽減になる」として、都の財政支出の削減をねらっています。財政支出を削減すれば、都立病院・公社病院が行っている感染症医療、小児医療など、不採算の「行政的医療」は後退します。「ビジョン」が独法化により「行政的医療をより一層充実」などとするのは、都民をあざむくものです。



新型コロナウイルスへの対応にも逆行

いま、都立・公社病院の現場は、新型コロナ対策に必死に取り組んでいます。そんな中、「病院リストラ」というべき独法化方針の策定を強行したことは、考えられないことです。

都民の声に耳を傾けよ

「ビジョン」策定の強行は、小池知事の「都民が決める」という公約に真っ向から反するものであり、断じて許されません。共産党都議団は、都立病院・公社病院の独法化に断固として反対します。

高齢者対策や貧困対策が不十分

2020年度予算案は、特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの施設整備費が軒並み減額。待機児童もゼロになつてないのに目標人数を減らしています。

共産党都議団はこの予算案に反対し、対案として、国保料（税）軽減や、認可保育園、特養ホーム増設をはじめとした予算組み替え提案を行いました。

2つのゼロ円条例を提案

共産党都議団が提案した「子どもの均等割ゼロ円条例」は、国保料の均等割の負担軽減を行

党都議団提案の成果

都営住宅の風呂釜・浴槽のうち、自己負担で取り換えていた住戸について、東京都の負担による取り換えが試行されました。また、気候変動への具体的な行動を国に求める「気候変動対策に関する意見書」を全会派共同で提出し、採択しました。

3月3日	全国一律休校にともなう学校等の対応に関する申入れ
3月26日	・大型の補正予算を組むこと ・感染拡大防止と医療提供のための対策強化 ・暮らしと営業を守るための財政支援
4月7日	・自肃と補償はセットで ・医療崩壊阻止、検査体制の整備、福祉施設への支援
4月7日	感染拡大防止と児童、生徒と都民を守る
4月8日	特別に配慮の必要な方の人権を守る観点の徹底
4月16日	ネットカフェ難民への個室住居の提供など
4月16日	「感染拡大防止協力金」の協力期間について

「3月以降の申し入れ」

うものです。「私立高校入学金助成条例」は、年収350万円未満世帯の生徒に入学金を無償とするものです。

共産党都議団は、18名の力を大いに發揮し、引き続き都民の命と暮らしを守る立場から、全力で奮闘するものです。



共産党都議団は、寄せられた切実な声をもとに、申し入れを行ってきました(左表はこの間の経過)。

第一回
都議会
定例会

2/19～3/27

小池知事の予算案に
対案示して反対
和泉なおみ都議団
幹事長談話より

党都議団

コロナ対策申入れ

羽田
新飛行ルート

事故が起つてからでは遅い！

撤回を主張が

小池都知事は羽田空港の増便・新飛行ルートを国と一体で推進しています。国は1月末から実際に旅客機を飛ばす試験飛行を行いました。

第一回定例会において、党都議団は住民の不安の声や2年間で942件にのぼる航空機からの部品落下を示して追及し、「事故が起つてからでは遅い。

藤田都議「羽田空港に国際便を年3・9万便増便する」という、国の計画の元で進められていますが、人口密集地・大都市上空を避けるという世界の流れに逆行しています。今、飛行機の減便が行われている状況で、いよいよ新飛行ルートは中止すべきです」。

藤田都議「羽田空港に国際便を年3・9万便増便する」と答弁し、都民の不安に応える姿勢を示しませんでした。

都政へのご意見、ご要望をお寄せください

藤田
りょうこ
りやくねこ

●1974年8月11日生 東京都大田区出身 ●1996年東京都立医療技術短期大学看護学科卒 20年間、看護師として従事 ●2017年、東京都議会議員選挙に初当選 都議会厚生委員 ●池上在住